

平成29年度 佐久長聖高校 学校自己評価

学校教育方針	中・長期的目標	今年度の重点目標
1. 礼節を重んじ、忍耐強く、誠実な人材の育成を図る。 2. 一人ひとりの個性を尊重し、授業・クラブ活動・館(寮)生活を通して、豊かな教養、感性、心身の健康を身につける。	1. 積極的、自主的な態度を養う。 2. 希望進路の実現をめざす。 3. 教職員の指導力を高める。 4. 校外から理解・支援される教育活動を展開する。	1. 生徒の様々な意欲をより高めることのできる学校づくり ・学習・生活・課外活動・館などすべての分野で、指導方法を模索し、質を高める。 ・ICTを導入し、活用を広げていく。 ・生徒との前向きな対話のある生活指導・学級運営を行う。 2. 生徒の安全と安心の確保

評 価	A	十分
	B	概ね十分
	C	やや不十分
	D	不十分
	E	評価できない

分野	評価項目	評価の観点	評価	成果(具体的に何ができたか)	今後やるべきこと、実施に当たっての問題点
学 習	授業内容の充実	1 授業評価を適宜行い、その内容を踏まえて授業の方法を工夫・改善して、生徒の学ぶ意欲を喚起しているか。	B	定期的な授業アンケートを行い授業改善に生かした。／小テストや発問への対応の様子から理解状態や意欲を把握しより良い状態に変わるよう試行錯誤工夫した。	大学入試だけでなく社会そのものが変わっていき求められる人物像も変わるため指導スタイルも変えていく必要がある。
	教科指導力の向上	2 研究授業のほかに教員相互の授業参観や相互批評をしているか。アクティブラーニングの手法を試みているか。	C	新任教師の授業をベテラン教師が参観して観察シートをネットワーク上で全職員で共有した。／「考える」ことが常にある授業ができていく。	授業参観の絶対量をもっと増やしたい。／消極的な生徒に対する指導法。／50分の授業の中で「考える」「相談する」時間をいかに生み出すか。
		3 各種の模試・検定などの客観的データを教科会や各自で分析し、生徒の学力に応じた授業を行っているか。	C	模試や入試の過去問を検討することでどのような思考力が必要か考えた。／理解をはかるテストを行いその結果を踏まえて授業に生かすことができた。	教科会でもっと話題として取り上げて考察する必要がある。／英語検定や漢字検定などの客観的データ分析が必要。
指 導	学習習慣の確立と自主的な学びへの導き	4 (学級担任として)生徒の学習状況・学習時間を把握し、面接によって個々に即した適切な助言をしているか。	C	学習記録を基に学習時間や生活リズムの把握とアドバイスをを行った。／生活記録を毎日チェックする中でポイントを決めて個別指導ができた。	副任であっても学習状況や学習時間を把握するよう努めたい。／面接に臨む前の予備調査をしっかりと行いたい。
		5 (教科担当として)学力や時期に応じて質的・量的に適切な課題を出して、日々の学習や計画的学習を促しているか。	C	考査前に対策プリントを作成し得点力向上に工夫をした。／全体への声掛けの一方個別への対応ができた。／理解不十分な内容に対する補講を開催した。	考査前の質問コーナーなどの利用者がさらに増えるように工夫したい。／何のための課題なのかを説明し生徒の「やる気」を引き出した。
		6 生徒のタブレットPC利用を促すような学びの課題や機会を、工夫して提供しているか。	C	日々の連絡をClassi上で行うことや、学習支援ソフトを活用した学習をさせた。／クラブ活動の中で体調管理やフォームチェックなどで利用している。／Classiを使ってwebテストを行った。	ICT授業をさらに進めるにはネット環境や機器の整備が必要。／生徒が定期的にタブレットを確認する習慣づけを進める。
進 路	希望進路の実現	7 学級担任・教科担当として3年間を見通した指導をしているか。学年会・教科会がそのために機能しているか。	B	互いの強みを生かして情報を共有しチームとして取り組んでいる。／生徒の中に「自分自身が自分の進路を実現する」という意識が浸透し始めた。	大学入試改革を控え学校全体で勉強していかなければならない。／到達目標地点をはっきりさせてそこからの逆算的指導をすべき。
	新しい時代を展望できる進路指導	8 社会への視野を広げ、自分の人生の目標を考える機会としてのキャリア教育を、計画し、実施しているか。	B	例年に比べキャリア教育の場面が増えた。／より多岐にわたる内容の校内企画を催したり外部の企画に参加できた。／将来の人生プランを作成させそれに合わせ今の目標を決める指導ができた。	グローバル社会に適応できる人材育成のための手段。／高校卒業後の進路のみでなく人としてどうなりたいのかなどを考えさせたい。
生 活	自律的生活の育成	9 服装・挨拶など生徒の自律的取り組みを促しているか。モラルや思いやりにつながる、心の指導をしているか。	C	生徒より先に挨拶ができた。／読書を通じて心の指導を行った。／クラス内の話し合いをとお互いが配慮することを意識するようになった。	服装など、カジュアルデーとのメリハリをつけさせる工夫をする。／理由や根拠を明確にしその結果どのような成果が表れるかをわかりやすく伝えたい。
	生徒相談といじめの発見・対処	10 担任・学年・部活顧問・館職員・生徒指導係等が連携を取りながら、適切に生徒相談に当たっているか。	B	個人的に相談されたことや周囲からの情報は必ず担任の先生に報告し今後の対応を相談した。／館生の中で様子がおかしければ担任や部活顧問などと積極的に情報根幹を行えた。	保健室利用の生徒に対して養護教諭と担任と情報交換をし適切な利用ができるようにする。
		11 現在の「いじめ」の定義(注)に基づいていじめを認知し、職員間で情報を共有して適切に対応しているか。	B	生徒指導部主体のアンケートを行うことでクラスの状況把握および必要な面談を行うことができた。／学年会やクラブ顧問との情報交換や保護者との連絡から早めの対応を心がけた。	見えにくいところ(SNSなど)でのいじめもある可能性がありどのように発見していくかが今後の課題。
指 導	安心・安全を守る指導、安全を考えさせる指導	12 校内の安全点検や日常の目配りを重視し、事故や危険を防止できているか。	B	放課後に当番を決めて教室などの巡回を行った。／体育科の教員で体育施設の点検・修繕などを行えた。／新校舎を意図的に校内を歩くように構造や状況把握に努めた。	見ていないようで見ている。見られていると思わせると生徒たちに抑制力を与える。／常にアンテナを高くする。
	13 校外での交通安全や防犯(インターネットによるトラブルの回避も含む)についての指導をしているか。	B	LINEやtwitterなど容易に情報発信できてしまう環境の危険性を講話やホームルームでの話を通じて説いた。／実際の事例を伝え事前に回避できるよう掛けている。	SNS等は教員の目の届かない部分があるため同指導していくか常に考えておくべき。／SNSなどの進化にどう対応するかが課題。	
開 か れ た 学 校	開かれた学校づくり	14 保護者や地域の方の意見・要望をくみとり、必要なことには、すばやく、的確に対応しているか。	B	保護者の相談等にはその都度速やかに対応できた。／メールや電話により保護者の疑問や要望に随時対応できた。	要望が過剰な際の対応力をつける。／きめ細かい対応が必要。
		15 電子媒体や紙媒体を通して、各種の情報を生徒・保護者や一般に向けて、定期的に提供しているか。	B	学年やクラスからの連絡事項や通信類を写真なども交えClassiから発信できた。それを見る保護者の数も増えた。／考査や模試結果などをClassiで配信した。	発信する情報量や時間帯など考慮していく必要がある。／Classiならではの写真などの情報はなかなかアップできていない。
		16 地域の方や校外の団体等と交流できる機会を、生徒に提供しているか。学校として交流に寄与しているか。	B	病院や養護学校でボランティア活動を行った。／積雪時の早朝時の雪かき。／部活動としてボランティアに参加した。／台湾の留学生を迎えて交流することができた。	生徒がより多く参加できる環境づくり。／同窓会の方には文化部の応援もいただくとありがたい。／文化祭を充実させより多くの地元の方に足を運んでもらう。

(注)一定の人的関係がある生徒の中で、一方が他方に心理的・物理的な影響を与える行為をして、対象となった生徒が心身の苦痛を感じていること。一時的なものや謝罪で解決したものも、「いじめであった」と考える。